1月 えんだより

こども未来局
保育・子育て推進部

令和８年１月　古川保育園

あけまして
おめでとうございます

新しい一年がスタートしました。

今年は**うま**年です。何事も**うま**くいく良い年となりますよう願っております。

こどもたちの元気な笑顔に会えることを楽しみにしています。

今月の予定

６日（火）動物愛護教室
【いのち・MIRAI 教室】（５歳）
１５日（木）フォトステップ写真撮影日
（全クラス）
２１日（水）にこにこ劇場（０・１・２歳児）
２２日（木）園医健診（４歳）
２４日（土）懇談会（全クラス）
※今年度最後の懇談会となります
詳細は後日お知らせいたします

～　らいおん組よりお願い　～

保育活動の中で「編み物」をしたいと思っています。

ご家庭に不要な『太めの毛糸』がありましたらお持ちください。

玄関のカウンターにカゴをおきます。

よろしくお願いします。

今月のコラム

～季節の言葉を探して・感じて～

昨年は「夏」がとても長くて、駆け足で「冬」が来たように感じませんでしたか？流行語の中には「二季」という言葉が入っているほど、季節の移ろいが極端でしたね。

私は趣味で「俳句」を作っていて、それを月１回句会に出しています。俳句は５・７・５文字の言葉で自分の見たもの、感じたものを表現するものです。その時に絶対に入れなくてはいけない言葉があります。それは季節を表す言葉「季語」です。天候や行事や草花等いろいろな言葉が季語になっています。

そんな中、意外な物が季語になっているのをご存じでしょうか？例えば・・「シャボン玉」「ブランコ」は春、「冷蔵庫」「ハンモック」は夏、「夜食」「囮」は秋、「竹馬」「ラグビー」は冬の季語になっています。

今ちょうど、４歳、５歳児クラスのこどもたちが「ことばあつめ」「しりとり」といった言葉を使った遊びを楽しんでいます。遊びのバリエーションの一つとして「季節の言葉」をお子さんと一緒にあつめてみるということも楽しいですね。（俳句もつくってみるともっと素敵！）

「夏みかんて、冬の季語なんだね」「これも季語かな？」と季節の言葉を探しながらのお散歩もおすすめですよ。

つもるかな　つもるといいね　明日の雪

１歳児担任　K

今月のテーマ

職員の「子育て苦労話」

新年早々「苦労話？」とマイナスのイメージを持たれるかもしれませんが、過ぎてみれば我が家の忘れられない思い出に…。
読んだ後は、気持ちを新たにお子さんと向き合うことができるかと思います。

『まあいいか～』

今は何でも自分でできる大人（おじさん？）になっていますが、私には年子の男児の２人のこどもがいます。

保育園に通っていたころは、自転車の前イスに一人を乗せ一人は背中におんぶし送迎をしていました。もちろん買い物や通院もしていましたが、今のような電動自転車はなかったので坂道も自力で漕いでいました。ある時坂道でペダルが急に軽くなり、驚いて振り向くと外国人の方が私の自転車を押してくれていました。あまりの私の必死な形相に「オカアサンガンバレ」と片言の日本語で応援してくれたことを今でも覚えています。

保育園の帰り道にお総菜屋さんがあり、少し遅くなった日は「まあいいか～」と出来立てのおかずを買って帰ったり、お皿を洗う気力もないときは近くのお店に食べに行ったりしたこともありました。

夜のおむつはなかなか外れず、でも濡れた布団を朝から見るより便利な紙おむつがあるから「まあいいか～」と夜は紙おむつを使っていました。

掃除も手抜きをすることもありましたが「まあいいか～」の楽天的な子育てだったかもしれません。

子育て真っ最中の皆さんを見ていると、我が子もあんなことがあったなと懐かしさやあの時こうしていたらなと後悔することもありますがでもやっぱり無事大きく育ったから「まあいいか～」と思うのです。

３歳児担任：M

イラスト出典　インプレス

『ほっかほかの言葉に支えられて』

子育ての苦労はあまり思い出せないです。（それだけ年を重ねてしまったという事ですが…）ほぼワンオペだったので、家の中は毎日戦場で家事が苦手な私は落ち込む毎日でした。でも、せめて楽しく過ごそうと頑張ったことはありました。

毎日保育園からの帰り道は５歳の姉と１歳の弟の２人の手をつないで、数十分ですが、お話を聞き、たくさん話をしました。特に冬はお月様や星を探しながら、とっても寒いのに『カッカ(母)と、なあな(姉)とタイチ～(弟)、シワワセ～！」と必ず言ってくれるこどもたち。ほっかほかの言葉に週末まで頑張れました。家の扉を開けるとやっぱり戦場でしたが…。

２歳児担任：N

『冬の夜長に絵本をどうぞ　(o^―^o)』

０歳児の頃から絵本をたくさん読んであげていました。保育園に入ると寝る前に読んであげていました。年齢ごとにお気に入りの絵本が変わり、文の長さも変わっていきました。年長になると、一冊が長い。文章物もあり小節ごとに区切っても、母の睡魔には勝てず、“コクリ”が始まります。こどもが「おかあさん…」とつついて起こしてくれ、それで続行できるのは週の初めで、週末に近づくと、どうしても起きられない。代わりに父が読んでくれたり、父不在の時には諦めさせてしまったりしました。こどもも予測がつき始めると「今日は寝ないでね」と言うようになりました。お話が好きな子だったので「本当にごめんね。貴重な時間も一緒に過ごせなくて」という気持ちになりました。それから小学校での音読が始まると自分で読むようになり、リュックに１０冊背負って図書館から帰ってくるようになりました。そんな本好きに育ったはずが、今は本を持つ姿を全く目にしなくなり将来を心配しつつ、職場の先輩ママに育児相談しながら元気を盛り返しています。それでも皆様には絵本をお勧めします。

フリー保育士：H